

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	エフビー介護サービス株式会社	代表者	柳澤 秀樹	法人・事業所の特徴	エフビー介護サービスの経営理念とミッション「人生の最終ステージを利用者様の幸せと満足で元気にする。」、ビジョン「ひとりでも多くの人とふれあい、沢山の笑顔を励みに。〈感謝〉と〈ありがとう〉のために」のもと全職員一丸となりケアを提供しています。
事業所名	あったかほーむ御嶽堂	管理者	市村 瑠美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	2人	1人	人	3人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様の情報や気付きなど、全職員で情報共有をし、ケアに繋げる。	利用者様との関わりの中で、本人の思いやケアのヒントを探しながら支援が出来た。しかし、ご家族様との連携不足や、カンファレンス不足もあり、即時的な支援が行えず、職員間で情報共有のばらつきがあった。	<ul style="list-style-type: none"> 本人の支援についてミーティングの回数を増やすなど不安のあるスタッフに対し情報共有がなされるような対策が必要。 アンケート結果を基に工夫して頂きたい。 スタッフの研鑽されている様子を拝見しとてもありがたいと思った。 	<ol style="list-style-type: none"> 定期的に、職員で改善計画の確認、評価を行い意識統一をしていく。 職員間における情報伝達の方法を改善し、即自的かつ効果的な支援に繋げる。 ご家族様との連携、職員とのコミュニケーションを密に行い支援方法を統一する。
B. 事業所のしつらえ・環境	いつ誰が来訪しても、気持ちよく過ごせるように環境整備と職員の接遇教育を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備チェック表を用いて、常日頃から漏れのないよう行った。 接遇に関しては年2回内部研修にて学びの機会をつくり、また新人職員に対して本社で行われる接遇マナー研修に参加してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で施設に伺うことが出来なかったがブログは頻繁に発信され、利用者様が楽しく過ごしている様子をうかがうことができた。 明るい雰囲気や父も居心地が良いそう。 コロナで面会が出来ず残念。 	<ol style="list-style-type: none"> 接遇・マナーに関して研修など学びの機会を増やし、職員の接遇教育をおこなう。 皆が安心して過ごしやすいよう日々環境整備を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	ブログの開設、広報誌を作成し、回覧板などで地域の方に事業所の様子を発信していく。	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から「御嶽堂通信」（広報誌）を隔月で地域の回覧板で回覧して頂いた。また、「Happy 御嶽堂」（ブログ）を活用し事業所の様子を発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各所でコロナで地域とのかかわりが持ちにくいなかブログの発信は良い取り組み。一人でも多くの方が見てもらえるような工夫が必要。 地域住民の方に事業所の見学会を開いてはどうか。等 	<ol style="list-style-type: none"> ブログや広報誌での事業所の情報発信を継続して行う。 コロナ感染状況をみながら事業所の見学会を実施する。 介護相談会を開催する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の活動（草刈りやゴミ拾いなど）に積極的に参加をしていく。地域でお祭りなどの行事があれば参加させていただく。必要に応じて地域を踏まえ事例検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でイベントが中止だったりと直接地域に出向くことが難しかった。 必要に応じて、行政、包括、民生委員などを交えて話し合いを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、民生委員、包括支援センター、行政等を交えて支援会議が行えている。今後も継続的な支援をお願いしたい。 日々包括支援センターや行政等と連携を取ることで支援体制が構築されていくと思う。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域の活動に積極的に参加をしていく。 利用者様を取り巻く地域資源の把握と理解を深め、連携していく。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議で出された意見をもとに、事業展開をしていく。困難事例などがあれば、一緒に話し合いを行い解決していく。	運営推進会議はコロナ禍で書面開催が多く直接意見をお聞きすることが難しかった。 ・困難事例の方に対し、必要に応じて地域の方を交えて話し合いを行った。	コロナ禍で数少ない開催だったが、運営推進委員がそれぞれの立場で率直な意見(施設への思い)を話せる場である。専門職以外の地域住民や家族の目線から困難事例についての考えを伺うことも大事な取り組みだと思う。等	① 運営推進会議で出された意見を事業展開に反映させる。 ② 困難事例など地域の方の意見を聞きながら事例検討を行い解決していく。
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進会議のメンバーと、地区の消防団、ご近所の方に防災訓練の案内を出し参加をお願いしていく。	・防災訓練は2回開催したが、コロナ禍で近所の方などの参加をお願いすることが難しく、事業所内での開催になってしまった。 ・事業所の防災計画が地域の方に周知されておらず有事の際の避難対策が甘いと感じられた。	・合同での防災訓練が実施できない場合でも事業所の防災計画の周知は必要である。事業所が土砂災害警戒区域、依田川浸水区域になっていることから災害時の避難支援について事業所の防災計画と併せ自治会との打ち合わせも必要。等	① 自治会と事業所の防災計画を共有し、災害時の避難支援について打ち合わせを行う。 ② 運営推進会議メンバーとご近所の方に防災訓練への参加をお願いする。